

道づくりだより

第45号

2011.11 島根県道づくり調整会議

祝 土木遺産登録



高津川に架かる高角橋(益田市)

Contents

1. 『高角橋』が土木学会奨励土木遺産に認定されました! (都市計画課)
2. 山陰道の3区間が新規事業候補箇所になりました。(高速道路推進課)
3. 松江だんだん道路 ～地域とのふれあい～ (道路建設課)
4. トンネル見学会を開催しました
～(主)浜田作木線 雪谷工区(伏谷トンネル)～ (道路建設課)
5. 今冬の除雪体制について (道路維持課)
6. 広域雪害情報伝達訓練を実施しました。(道路維持課)



『高角橋』が土木学会選奨土木遺産に認定されました！

1. 高角橋の位置



2. 高角橋の構造

高角橋は、昭和17年当時、延長195m・有効幅員5mの鉄筋コンクリート・ローゼ桁で、全国でも珍しい形式として完成しました。しかしながら橋桁は低く、昭和18年の大水害で橋が水を遮り、上流の堤防を決壊させる要因となりました。これを受け、昭和26年にオイルジャッキを応用し、1.1m～1.6m程度、橋梁の嵩上げ施工を行い、翌27年に現橋が完成しました。更に川幅70mの拡幅工事に伴い、須子側にゲルバー桁下路橋の継ぎ足し工事を行い、全長261.62m・有効幅員5.0mの高角橋が完成しました。

また、歩行者の安全確保のため、昭和43年に車道とは完全分離した幅2.0mの歩道が完成し、現在の高角橋のようになりました。



【写真】高角橋（高津川下流より）

3. 選奨土木遺産の認定理由

- ・ 全国的にも大規模、かつ島根県では唯一の RC ローゼ桁橋
- ・ 高津川に映える 5 連のアーチが美しい橋（造形美の評価）
- ・ 「高角橋土木遺産登録を進める会」による認定に向けた活動（住民活動の評価）

4. 選奨土木遺産認定記念式典

12月4日（日）に地元主催による選奨土木遺産認定記念式典が、高角橋付近の「やぶさめ公園」で行われました。

記念式典、ウォーキング大会では、地元関係者約 100 名により、高角橋の土木遺産認定を祝いました。



記念式典（祝辞：福原益田市長）



くす玉開披



ウォーキング大会の様子

【参考】選奨土木遺産とは

1. 選奨土木遺産認定の意義及び県内の認定箇所

1) 認定制度

公益社団法人土木学会により、「土木遺産の顕彰を通じて、歴史的土木建造物の保存に資すること」を目的として平成 12 年度に認定制度が創設されました。

2) 認定による効果・目的

- ① 社会へのアピール
- ② 土木技術者へのアピール
- ③ まちづくりへの活用
- ④ 失われるおそれのある土木遺産の救済

3) 島根県内の認定箇所（場所：認定年）

- ① 千本堰堤（松江市：H15 認定）
- ② 福浦隧道（隠岐の島町：H17 認定）
- ③ 今福線のコンクリートアーチ橋群（浜田市：H20 認定）
- ④ 高角橋（益田市：H23 認定）

計 4 箇所

2. 土木遺産の認定方法

- ・ 一般公募
- ・ 学会推薦 ※高角橋は学会推薦による認定です。

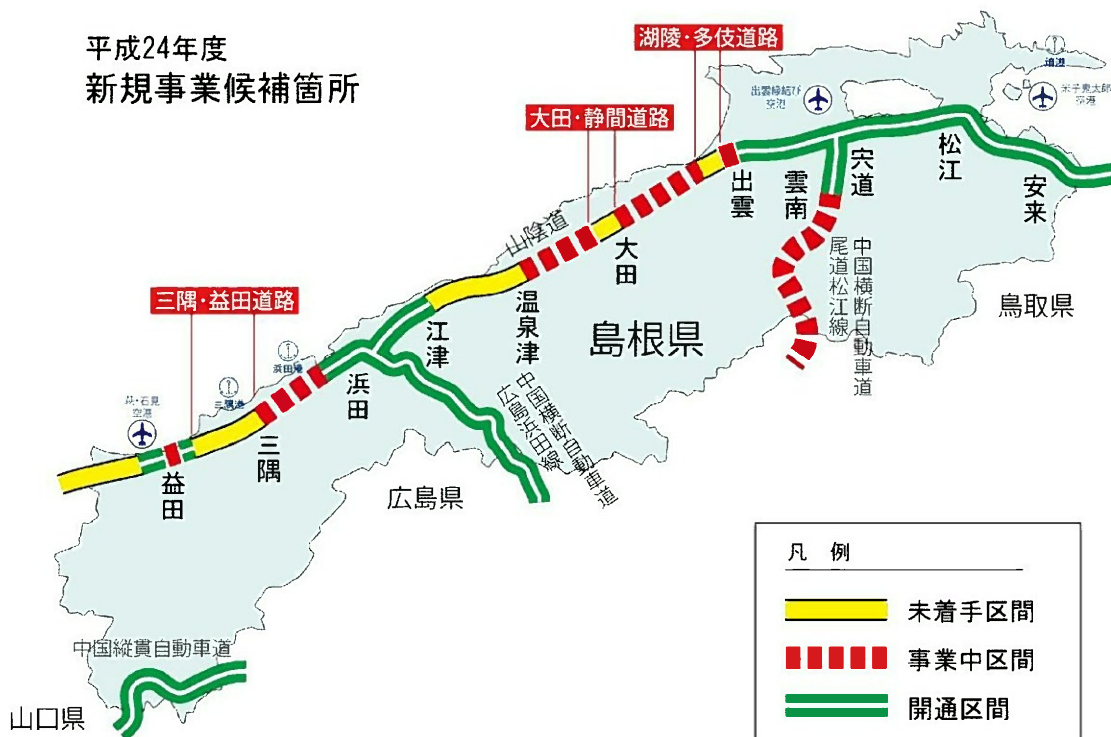
選奨土木遺産に関する詳細内容は、以下の土木学会ホームページでご確認下さい。

(<http://www.jscc.or.jp/contents/isan/>)

山陰道の3区間が新規事業候補箇所になりました。
(湖陵・多伎道路、大田・静間道路、三隅・益田道路)

山陰道は、県民の安全・安心な生活を守り、広域的な産業振興・経済発展などに大きく貢献する高規格幹線道路です。その一日も早い全線開通に向け、これまで様々な取り組みを進めてきましたが、県内の高速道路の供用率は未だ55%と、全国平均の76%から大きく遅れているのが現状であり、平成20年度以来、新たな区間の着手もない状況が続いていました。

しかし、このたび11月7日(月)に国土交通省より平成24年度予算要求に向け、山陰道の3区間(湖陵・多伎道路、大田・静間道路、三隅・益田道路)について、新規着手に向けた手続きに入ることが発表され、11月16日(水)に開催された第三者委員会(社会資本整備審議会道路分科会事業評価部会)において、3区間の「新規着手は妥当である」との判断が示されました。これは、山陰道の全線整備に向けて大きな前進であり、大変喜ばしいこととなります。



松江だんだん道路

～地域とのふれあい～

「松江だんだん道路(松江第五大橋道路)事業」は住民説明会の開催、情報提供誌の発行、ホームページでの紹介などを繰り返し行い、地域住民や市民の皆様とコミュニケーションを交わしながら住民参画型で事業を進めています。

この度、平成24年春に松江JCT～西尾IC間が部分供用開始(予定)されるのに先立ち、松江市立女子高校行事とジョイントを組み、「松江だんだん道路」の学習会と「縁結び大橋」をコース内に取り入れたロードレースを11月8日に開催しました。

さらに、平成25年春の供用開始(予定)となる西尾IC～川津IC間では、和久羅トンネル(L=544m)の掘削工事が進められており、11月26日には周辺住民を招いてトンネル見学会を開催しました。

今回は、こうした「地域とのふれあい」2イベントの様子を紹介します。



イベントの様子



だんだん道路の概要や効果について勉強しました

女子校との
ジョイント



供用後は歩けない車道部を思いっきり走りました



「異空間？」で大人も子供も真剣そのもの

トンネル
見学会



グイーン！モグラのようなトンネル掘削機

トンネル見学会を開催しました ～(主)浜田作木線 雪田工区(伏谷トンネル)～

平成21年度から下図の区間において、主要地方道浜田作木線雪田工区道路改良工事を行っています。この区間の着手前の現道は約3100mでしたが、2本のトンネルを計画したことにより完成（平成27年度予定）時には、約700mの距離短縮となります。

平成23年10月13日に施工中の伏谷トンネルにおいて、現場見学会が行われましたので、その模様を報告します。



午前には、口羽小学校・阿須那小学校・高原小学校・瑞穂小学校（4年生）から143名、阿須那中学校から31名、午後からは、一般の方が87名(合計261名)のみなさんの参加を頂きました。

《 現場見学会の内容 》

最初に事業の内容やトンネル工事の内容、トンネルの掘削方法について説明を行ったあと、トンネルの中に入りました。

トンネルの中では、支保工や大型機械の使用方法等について説明を行いました。なかにはサイドダンプと記念撮影をする等、小学生達には施工中のトンネルの中や大型機械は興味深かったようです。

最後に「機械はどうやって運んでくるの?」、「集塵機の値段は?」等、いろいろな質問を受けました。



また、今回の見学会は小学生が多かったので、少しでもトンネル工事の内容を理解してもらえよう右のチラシを配布しました。

分かりやすいチラシ作りはかなり頭を悩ませましたが、幸い好評でした。

あしたに 伏谷トンネル

～ 主要地方道 浜田作木線 管田工区 ～

今の道路は幅が狭く車と車のすれ違いも難しく、道幅もクネクネしているため、運転する人にとってはとても危ない道路です。この伏谷トンネルが出来ると、ほほほっくは道路となり、幅も広がるので、安心して安全な道路となります。

伏谷トンネル
長さ 286m

新しい道路が
広くて安心!

トンネルが出来ると、道幅が約600mくらい増えて、高速車も早く通れるようになります。

トンネルを作るためには、山の中に穴をあける必要があります。今通っている山は硬い岩なので、火薬を使わずに掘削し、岩を削り取って運んでいきます。その作業がドリルジャンボという機械です。火薬を入れる穴を掘ったり、いろいろな作業を行います。これから工事の予定は、穴をコンクリートで覆って、舗装をしてトンネルが出来あがります。

浜田作木線高見管田間改良促進期成同盟会・今井産 業・トナ/建設特別共同企業体

新しいトンネルを早く通ってもらえるよう、一日も早く完成を目指します

○工区概要○

- 工区延長 : 2400m
- 事業期間 : 平成21年度～平成27年度(予定)
- 道路規格 : 3種4級
- 設計速度 : 40 km/h
- 道路幅員 : 5.5(7.0)m
- 主要構造物 : 伏谷トンネル
L=286m
雪田トンネル
L=155m
- 総事業費 : 約18.5億円



今冬の除雪体制について



【今年度の除雪体制】

- 鳥根県全体で 229 路線 2,921.7 kmを県保有機械 165 台（うち除雪機械 104 台、凍結防止剤散布車（機）37 台、歩道除雪車 24 台）、業者保有機械 290 台の計 455 台で除雪を行います。また、今年度から豪雪時には国、県、市町村が互いに連携して除雪を行う新体制を整えています。

【冬期道路情報について】

- 今年度も 12 月 1 日から鳥根県のホームページで、冬期道路の気象データやカメラ映像を公開します。気象データは 10 分、カメラ映像は 5 分間隔で更新します。



☆冬期道路の気象データやカメラ映像をホームページで公開しています☆

パソコン版：<http://www3.pref.shimane.jp/roadi/index.html>

携帯版：<http://www3.pref.shimane.jp/roadi/mov/>

★広域雪害情報伝達訓練を実施しました★
(松江県土整備事務所)

昨年度の年末年始の大雪被害を教訓として、松江地区において冬期の大雪による被害を想定して、迅速な初動体制の発令や関係機関の連携による情報伝達訓練を実施しました。

訓練は、国・県・市の職員、警察、電線管理者、除雪業者が参加したほか、コンビニや道の駅などからの情報収集も行い、広域的な情報伝達方法について確認しました。

